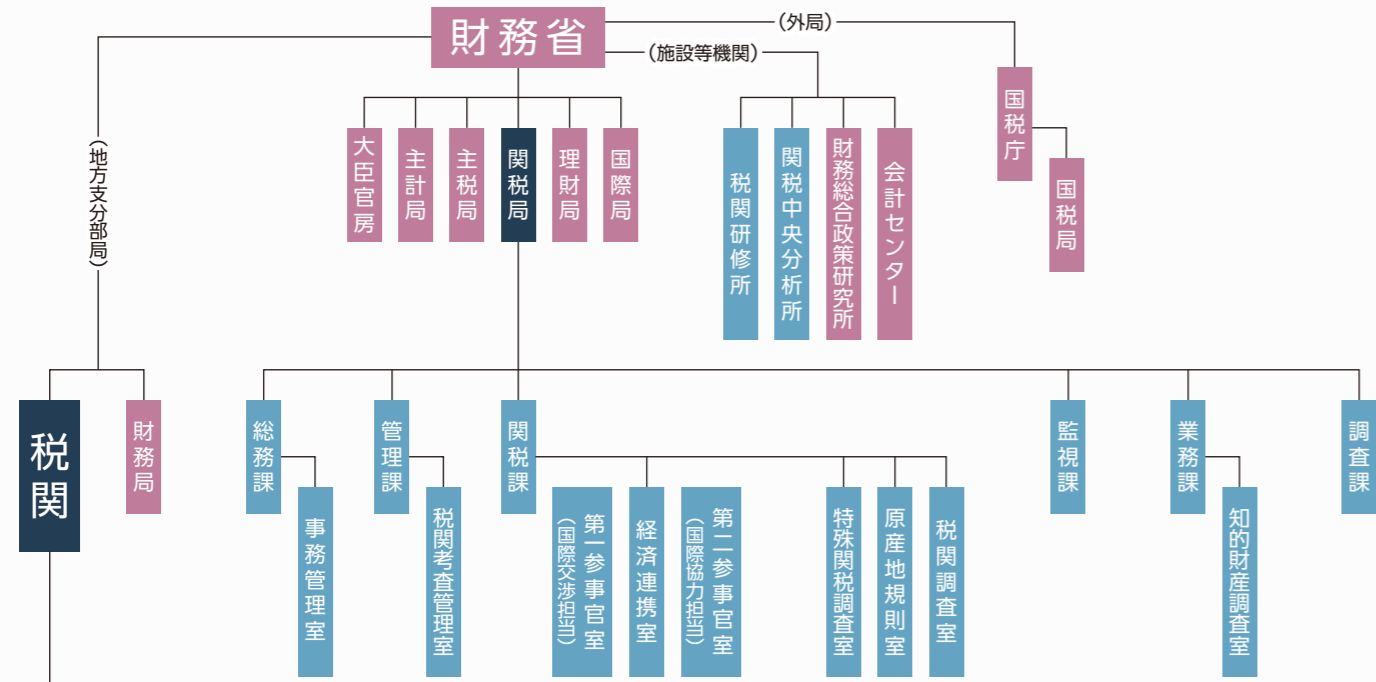


財務省税関の組織図



税関 9税関10,178人 ※令和5年度定員

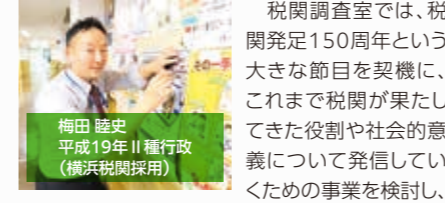
- 総務部** 税関事務の総合調整、税関についての広報及び広聴
- 監視部** 船舶・航空機・輸出入貨物の取締り、旅客・乗組員の携帯品等の取締り・検査及び徴税、保税地域等の許可又は承認及び取締り
- 業務部** 輸出入貨物に係る審査・許可及び承認、輸入貨物に係る関税等の税率の適用・確定及び徴税、輸出入貨物の分析、国際郵便物の検査及び徴税
- 調査部** 輸出入された貨物に関する調査、犯則事件の調査及び処分、情報の管理及び分析、外国貿易統計の作成

税関支署[68] 税関出張所[105] 税関監視署[9]



令和4年11月28日、税関は前身である運上所から改称され、税関発足から150周年を迎えました。税関発足150周年を機会に、多くの国民の皆様により税関についての理解を深めていただくプロジェクトを実行するため、全国の税関から様々なキャリアを持った職員が税関調査室に集まりました。

税関発足150周年事業とは



新しい企画に挑戦



近年のコロナ禍の長期化や国際情勢の変化が国際物流や貿易にもたらしている影響を背景に、税関を取り巻く現下の課題について大学生とともに考える

様々な方法で実施してきました。

事業を成功させる鍵は、どうやってターゲットの心に刺さる事業とするか、です。このため、関税局内の若手職員で構成された「かもめプロジェクト」を立ち上げ、柔軟で斬新なアイデアも取り入れて、事業を企画立案し、検討を進めました。この考えは、財務省の組織理念の中で、組織の目指すべき姿である、「多様な職員一人一人を大切に、チームワークで高い成果を上げる、風通しが良く、効率的で実行力の高い組織」を具現化したものです。

このようにして検討・実施した事業には、小中学生に絵画を通じて税関を知ってもらおうコンクールや、大学生たちに参加いただいたフォーラムなどターゲット層を絞って実施したものや、より多くの方々に税関を身近に感じていただけるように内容を工夫した「税関発足150周年記念特設サイト」などがあります。

どんな意見でも言いやすい風土があり、尖った意見も時々採用されるので、とても楽しい職場です。

水際で守る日本の未来

事業の実施と経緯



私は150周年特設サイトの編集を担当しました。前職では関税局総務課で広報業務を担当し、税関ホームページの運営に携わっていました。特設サイトを運営

するにあたり、広報業務で身につけたスキルや経験を活かして、より多くの方にご覧いただけるようデザインなど工夫を凝らしました。税関の歴史やこれまで果たしてきた役割などをわかりやすく伝えることは難しく、試行錯誤の連続でしたが、諸先輩方にサポートいただきながらサイトを作り上げることができました。

ほかにも、SNSを通じてさまざまな情報を発信しました。SNSを見て税関のイベントに足を運んでくださる方もたくさんいて、税関の認知度向上に貢献できたことにやりがいを感じました。特設サイトは、このページにある二次元コードからご覧いただけます。この機会にぜひ税関の歴史と役割について知っていただけたら嬉しいです。

フォーラムを企画しました。私たちにとって初めて実施する事業であり、企画検討は手探りでしたが、かもめプロジェクトメンバーと一緒に1つ1つ積み重ねたことで、フォーラムを無事に開催することができました。参加学生からは「税関が重要な役割を果たしていることを理解した」、「職員の方々が明るく、雰囲気良かった」などの感想が寄せられ、税関について理解を深めていただく機会となりました。企画の着想から開催までのプロセスのように、職員には企画力や調整力、コミュニケーション力をフル活用する場面があり、大変やりがいのある仕事が多岐にわたります。このパンフレットをご覧になった皆さんにも、是非税関でご自身の力を発揮していただきたいと思います。



150周年事業の成果物等

